

3学期 始業式式辞

新年 明けましておめでとうございます。

「東京2020」この年も、令和元年と同様に、皆さんが人生において何度も振り返る年になります。

新年を迎え、皆さんは新鮮な気持ちでここに集まっていることと思います。

皆さんに尋ねます。

あなたは、どのような人になりたいですか。

どのように生きていきたいと考えていますか。

冬休みには家族で過ごす時間があつたので、このことについて話し合った人もいることと思います。

具体的に考え、新年の誓いとして、心に刻んだ人もいないのでしょうか。

どのような人になるのか。どのように生きていくのか。

皆さんが自分の力で答えを出さなければならない問題ですが、参考になる事例は身近なところにあります。

2018年サッカーワールドカップロシア大会で日本人サポーターが、試合終了後に自ら進んで会場のごみを拾い集めたという話。

最近では、3ヶ月前のラグビーワールドカップで、台風で試合ができなくなったカナダチームの選手が 道路にたまった土砂を片付けるボランティアに参加しました。試合が中止になったことで、勝利を目指して厳しい練習を重ねてきた選手たちは落胆したに違いありません。それでも、釜石市民はもとより、多くの日本国民から感謝されたことで、「試合に勝つ」という目的以外の達成感を得られた。とある選手が語っていました。

この二つの出来事の動機に共通することは何でしょうか。

サッカーの大会で進んでごみを拾った日本人サポーターの方々の動機は、会場を使わせていただいたことに対する「感謝の気持ち」でした。

カナダチームの選手の皆さんも、釜石市の方々の心からのおもてなしや応援に対する「感謝の気持ち」を示したいと自ら動いたのです。

「感謝の気持ち」を抱くと人は謙虚になります。

素直である。ひけらかさない。相手を思い遣る。自分の非を受け入れる。

のが「謙虚な人」です。そのような人の周りには、同じように感謝の気持ちを抱く人々が自然と集まってくるため、人生は充実し、希望に満ちあふれた明るいものとなっていきます。

どのような人生を過ごすかは、感謝の気持ちを抱いていくか否かで大きく左右されると言っても過言ではありません。

さあ、令和2年、そして、三学期です。それぞれの学年の最後の締めくくりです。

朝は、希望に起き、昼は 努力に生き、夜は 感謝に眠る。

このような生き方はどうでしょうか。

令和2年1月9日 たつの市立新宮中学校 堀 富雄